

平成24年度全国水産試験場長会全国大会(和歌山)

要 録



和歌山県水産試験場

期 日 平成24年11月21日(水)

会 場 和歌山県水産試験場

〒649-3503 和歌山県東牟婁郡串本町串本 1557-20

TEL0735-62-0940 FAX0735-62-3515

主 催 全国水産試験場長会

目 次

1	大会の構成	
1)	大会日程	1
2)	大会次第	2
3)	出席者名簿	3
2	挨拶	
1)	会長	5
2)	来賓	7
3)	開催県	10
3	報告(田添会長)	
1)	平成23年度活動結果および平成24年度活動計画について	11
2)	国への要望「地域の抱える懸案事項」等について	12
4	情報交換	
1)	平成22年度に実施したアンケート結果から見た水産試験場を取り巻く現状と 問題点	25
5	話題提供	
1)	和歌山県における水産試験研究の現状	33
6	優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰	
1)	審査委員長経過報告・講評	43
2)	会長賞表彰式	44
3)	会長賞受賞記念講演	
	愛媛県	45
	山口県	53
	滋賀県	63
7	現地意見交換会	69
8	関係写真	71

- 1 大会の構成
1) 大会日程

平成24年度全国水産試験場長会全国大会（和歌山）

大会行事	開催日時・開催場所
全国大会	平成24年11月21日(水) 13:30~17:05 和歌山県水産試験場 学習ホール
現地意見交換会	平成24年11月22日(木) 9:00~12:00 和歌山県水産試験場及び 近畿大学大島実験所クロマグロ養殖場

2) 大会次第

平成24年度全国水産試験場長会全国大会(和歌山) 次第

開催日時: 平成24年11月21日(水)13:30~17:05

開催場所: 和歌山県水産試験場 学習ホール

1 開 会

2 挨拶

- 1) 会 長
- 2) 来 賓
- 3) 開催県

3 報 告

- 1) 平成23年度活動結果および平成24年度活動計画について
- 2) 国への要望「地域の抱える懸案事項」等について

4 情報交換

- 1) 平成22年度に実施したアンケート結果から見た水産試験場を取り巻く現状と問題点

5 話題提供

- 1) 和歌山県における水産試験研究の現状

6 優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式

- 1) 審査委員長経過報告・講評
- 2) 会長賞表彰式
- 3) 会長賞受賞記念講演

7 閉 会

3) 出席者名簿

平成24年度全国水産試験場長会全国大会出席者名簿

開催日:平成24年11月21日 開催場所:和歌山県水産試験場

	機関名	役職名	氏名
国等関係機関	水産庁増殖推進部	部長	香川 謙二
	水産庁増殖推進部 研究指導課	課長補佐	盛 高明
	(独)水産総合研究センター	理事長	松里 壽彦
	(独)水産総合研究センター	理事	和田 時夫
	(独)水産総合研究センター	研究開発コーディネーター	安藤 忠
	(社)全国豊かな海づくり推進協会	顧問	澁川 弘
	(社)漁業情報サービスセンター	会長理事	川口 恭一
	全国養鯉振興協議会	相談役	佐藤 稔
	和歌山県農林水産部 水産局	局長	里森 修
	和歌山県漁業協同組合連合会	代表理事会長	木下 吉雄
(公財)わかやま産業振興財団	常務理事	木瀬 良秋	
北海道	(地独)北海道立総合研究機構水産研究本部 中央水産試験場	本部長兼場長	鳥澤 雅
東北	(地独)青森県産業技術センター 水産総合研究所	所長	天野 勝三
	(地独)青森県産業技術センター 食品総合研究所	企画経営監	成田 清一
	岩手県水産技術センター	所長	井ノ口 伸幸
	宮城県水産技術総合センター	副所長	山岡 茂人
	福島県水産試験場	場長	五十嵐 敏
北部日本海	秋田県水産振興センター	所長	中村 彰男
	富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	所長	佐藤 建明
東海	千葉県水産総合研究センター	センター長	山崎 英夫
	東京都島しょ農林水産総合センター	振興企画室長	工藤 真弘
	神奈川県水産技術センター	所長	米山 健
	静岡県水産技術研究所	所長	鈴木 雄策
	三重県水産研究所	所長	紀平 正人
瀬戸内海	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所	水産研究部長	辻野 耕實
	岡山県農林水産総合センター 水産研究所	所長	山野井 英夫
	徳島県農林水産総合技術支援センター 水産研究所	所長	團 昭紀
	香川県水産試験場	場長	坂本 久
	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター	総務室長	芝 弘晃
	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター	主任研究員	山下 浩史
	高知県水産試験場	場長	松村 春樹
西部日本海	福井県水産試験場	海洋研究部長	木下 仁徳
	京都府農林水産技術センター 海洋センター	所長	中津川 俊雄
	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	所長	中村 一彦
	鳥取県水産試験場	場長	下山 俊一
	島根県水産技術センター	所長	北沢 博夫
	山口県水産研究センター	所長	井玉 貢
	山口県水産研究センター	専門研究員	南部 智秀
九州・山口	福岡県水産海洋技術センター	所長	富重 信一
	佐賀県玄海水産振興センター	所長	伊藤 史郎
	長崎県総合水産試験場	場長	田添 伸
	熊本県水産研究センター	所長	梅崎 祐二
	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部	部長	壽 久文
	宮崎県水産試験場 小林分場	分場長	毛良 明夫
	鹿児島県水産技術開発センター	副所長	中村 章彦
沖縄県水産海洋研究センター	所長	勝俣 亜生	

内水面

東北・北海道	(地独)北海道立総合研究機構水産研究本部 さげます・内水面試験場	場 長	永 田 光 博
関東・甲信越	神奈川県水産技術センター 内水面試験場	場 長	水 津 敏 博
	山梨県水産技術センター	所 長	高 橋 一 孝
東海・北陸	岐阜県河川環境研究所	所 長	松 永 良 治
	岐阜県河川環境研究所	資源増殖部長	桑 田 知 宣
	岐阜県河川環境研究所	生態環境部長	太 田 雅 賀
近畿・中国 四国	滋賀県水産試験場	参 事	遠 藤 誠
	滋賀県水産試験場	主任主査	上 野 世 司
	奈良県農林部農業水産振興課	主 査	南 英 樹
	高知県内水面漁業センター	所 長	小 松 章 博
九州・山口	福岡県水産海洋技術センター 内水面研究所	所 長	西 川 仁

開催事務局他

開 催 県 関 係	和歌山県農林水産部 農林水産政策局 農林水産総務課 研究推進室	室 長	本 田 孝 志
	和歌山県農林水産部 農林水産政策局 農林水産総務課 研究推進室	主 査	内 海 遼 一
	和歌山県農林水産部 水産局 水産振興課	主 査	田 中 俊 充
	和歌山県水産試験場	場 長	木 村 創
	和歌山県水産試験場	副場長	吉 本 洋
	和歌山県水産試験場	資源海洋部長	武 田 保 幸
	和歌山県水産試験場	増養殖部長	小 久 保 友 義
	和歌山県水産試験場	主査研究員	向 野 幹 生
	和歌山県水産試験場	主査研究員	堀 木 暢 人
	和歌山県水産試験場	主査研究員	原 田 慈 雄
	和歌山県水産試験場	副主査研究員	千 川 厚
	和歌山県水産試験場	副主査研究員	土 居 内 龍
	和歌山県水産試験場	副主査研究員	白 石 智 孝

2 挨拶

1) 会長

あ い さ つ

全国水産試験場長会

会 長（長崎県総合水産試験場長）田 添 伸

今年4月から会長を仰せつかっております長崎水試の田添でございます。

会員の皆様方には師走を前にお忙しい中、第2回全国水産試験場長会全国大会にご出席いただきありがとうございます。

また、公務ご多用中にも関わらず、水産庁からは香川増殖推進部長様、水産総合研究センターからは松里理事長様、開催県の和歌山県からは里森農林水産部水産局長様、木下県漁連会長様、その他多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

また皆様方には、我々全国場長会の活動に対して、常日頃からご協力・ご支援をいただいております、心より厚くお礼申し上げます。

この全国場長会は、昨年度新たに生まれ変わりました。その新たな活動の柱である全国大会の第2回大会を、ここ和歌山の地で開催できることを嬉しく思いますし、関係の皆様方のおかげであると心から感謝いたしております。

昨年は、3月の東日本大震災をはじめ、9月には、この地和歌山を含む紀伊半島での大雨被害など、また今年は、7月の九州北部豪雨による災害など、これまで経験したことがない未曾有の大災害に相次いで見舞われています。改めて被害を受けられた方々に、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を強く願っております。

全国場長会は、昨年度新たに生まれ変わったと申しましたが、発足以来約60年の歴史があります。この間、種々の活動を行い、全国を網羅する幅広いネットワークも構築するとともに、水産庁や水産総合研究センターをはじめ関係機関との連携のもと、試験研究の面から水産業の発展に努めてきたところであります。

しかしながら、昨今の水産業を取り巻く情勢は、言うまでもなく、魚価安や後継者不足など、厳しさが増すばかりで、業として成り立たないほどの閉塞感さえもあります。また大震災復興のためには、まだまだやるべきことが山積しています。これら課題を解決していくためには、水産分野だけではなく、我が国の優れた技術力を十分活かしていくことが極めて重要だと考えています。

水産分野における新たな技術開発と改良、既存技術や水産分野以外の技術との融合など、これら技術を駆使し水産政策に十分活かしていければ、我が国の水産業は、必ずや明るい展望が開け、十分再生していけるのではないかと考えています。その技術を生み出し支える基本が、試験研究です。水産総合研究センター、水産庁をはじめ、本日ご出席の関係機関や団体、大学などと、今後さらに連携を密にして、我々地方水試の役割と責務をしっかりと果たしていきたいと考えていますので、より一層のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本日は、短く限られた時間の中で盛りだくさんの議題がありますが、皆様方のご協力により有意義なものとなりますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本大会の開催に当たり地元和歌山県水産試験場の方々を始め関係の皆様方には大変お世話になりました。心から御礼申し上げまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

2) 来 賓

あいさつ

水産庁

増殖推進部長 香川 謙 二

水産庁増殖推進部長の香川でございます。本年10月に就任いたしましてまだまだ新米でございますがよろしく申し上げます。

それでは、平成24年度全国水産試験場長会全国大会の開催に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

まず、本日まで出席の皆様方におかれましては、水産業の振興を図るため、日頃水産関係の試験研究、技術開発の推進にご尽力いただき、この場を借りまして改めてお礼を申し上げます。

昨年3月に発生いたしました東日本大震災につきましては、その被害に対しまして水産庁と致しまして早急に復旧するための予算を平成25年度においても概算要求しているところでございます。また、昨年度に引き続き大震災対応として、水産総合研究センター、各県庁、各水産試験場、漁業関係団体と協力をしながら、放射性物質調査や被災地の水産振興のための調査研究を実施していきたいと考えております。それによりまして、一日でも早く全ての水産物が安全であると消費者に伝えられるよう期待してやみません。

また、水産業を取り巻く状況については、ご承知のとおり震災からの復興を含めて水産物の消費低迷等依然として厳しい状況にございます。このような中におきまして、本年3月に新たな水産基本計画が閣議決定されたところでございます。この計画の中では、水産業を支える調査研究・技術開発として、水産業の未来を切り開く新技術の開発及び普及、海洋関係の基礎的な調査研究の拡充がうたわれているところでございます。一方におきまして、現場からのニーズとしては、個々の試験研究機関の特徴を出しながら漁業関係者や消費者等のニーズに対応していただくような取り組みに対して引き続きニーズの把握と予算の拡充に努力して参りたいと考えています。

最後に、厳しい財政状況でございますが、水産関係の試験研究技術開発の重要性を各方面にアピールし理解を求めていくことが必要かと思っております。このような努力をこれまで以上に行いながら、各機関が一丸となって研究開発に取り組んでいただきたいと思います。今後とも全国水産試験場長会の発展を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうでございます。

あいさつ

独立行政法人 水産総合研究センター

理事長 松里 壽彦

水産総合研究センターの松里でございます。改変後の全国場長会全国大会の第2回にあ

たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

昨年3月に起きました東日本大震災及び原子力発電所の事故により東北地方を始め極めて多くの方々が被災され、漁業関係者並びに水産試験研究施設、県の栽培漁業センター等でも職員の方が亡くられるなど大変な被害があり、改めて心からお悔やみ申し上げます。先ほど田添会長からご報告されたとおり東北の震災に加え昨年はこの和歌山を含めて色々と被害があり、災害大国であるという感じがしました。大変な国だと思いつつも、みんなで協力しながら少しずつ着実に回復しつつあるのかと感じます。農林業関係の方とも付き合いがあるのですが、復興について、「水産はすごいですね」とよく言われ、かなりのスピードで回復していると感心されます。

我が国は多様性のある海があり、有史以来海の恵みによって支えられてきました。日本という国は60年以上の間400万トンの漁獲高をキープしてきました。その間にマイワシの増減や遠洋漁業の衰退などがありました。しかし、年間400万トンの漁獲量があるということは、現状の漁獲率は22.9%であることから、常に約1000万トンの漁獲可能資源があるということで、金額に換算すると約20兆円になります。私が申し上げたいのは、これほど恵まれた国はないのではないかとということです。まず、私たち自身が恵まれているということを自覚して、それを維持していく、資源管理という難しい事の前に常識としてそういう考えがあっているのではないかと思います。水産業において、色々な問題がありますが、それをどう解決していくかは当会議にご参加の皆さんが一生懸命取り組んで頂いているところであります。そういった国・県の水産研究システムというものも非常に恵まれています。私たち研究所の側から見ましても地方の試験場のパワーというものは非常に優秀です。世界と比べても圧倒的であり、その研究の中核となっている私たち水研と各県の水産試験場の中で、色々な問題があってもそれを解決してきたことで、何とかこの漁獲高を維持してきたのではないかと思います。

私達センターの取り組みに少し触れさせてもらいますが、東日本大震災に関しては、国から予算をいただいて、出来ることは何でもすると最初に申し上げたので、出来るだけのことはいたします。それからもう一つ、手助けのことで、あくまでも県のサポートとしての立場があり、そうしてやってきました。特に岩手、宮城、福島の各県の皆さんとタッグを組んで対応してきました。それから、私達の方も被災者であり、岩手県の宮古にある施設が完全に消失いたしました。記録によると37mもの津波があり、それにより私達の施設は完全に消失しました。おかげさまで厳しい水産庁の財政の中でも復興予算をつけていただいて今まさに建設途上でございます、今年度中には完成いたしますので、完成した暁には、北部太平洋区の増養殖関係の研究拠点として活躍していきたいと思っています。さらにもう一つ宣伝させていただきますと、世界的にクロマグロとかウナギとか資源状態の懸念や関心が高まってきていますが、養殖については、完全養殖の技術開発などが最終課題となっています。マグロに関しましては、長崎の西海区水産研究所の敷地を使いましてマグロの施設を建設中であり、完成した暁には卵の安定的な排卵という一点に絞って技術開発をしようという覚悟を決めて動いております。ウナギに関してはいくつかのプロジェクトをいただいてやっているところで、今現在ウナギに関して研究しているのは増養殖研の本所と鹿児島県の志布志、それから大分の上浦、静岡県南伊豆、沖縄県の八重山とこれらの施設で分担して、または重複してもそれぞれ別的手段や手法を使いながら総合的に解

明していこうと頑張っています。基本的に期待の高い魚種でございますし、厳しい中でも予算を付けていただいているので我々の存続をかけて頑張っている次第です。水研と致しましては国と地方の役割分担を踏まえつつ、水産業及び水産行政の課題に対し取り組んでいきたいと考えています。最後に全国水産試験場長会及び開催県である和歌山県を始めとする関係者の皆様に対し、全国大会の開催を心よりお喜び申し上げます。本大会を通じ水産業の復興・発展につながることを期待しております。本当におめでとうございます。

3) 開催県

あ い さ つ

和歌山県

農林水産部水産局長 里 森 修

和歌山県水産局長の里森です。開催県を代表して一言歓迎のご挨拶をさせていただきます。

今回は本州最南端の町、串本町での開催となりましたが、遠路皆様には多数の方々に出席をいただきましてありがとうございます。最近の漁業界を表す言葉として、「資源の減少枯渇」、「価格の低迷」、「後継者不足」、「漁業者の高齢化」こういう言葉がすぐ口に出るほど、今やこういう言葉が枕詞と化している状況にあると存じます。全国的に漁業界全体が厳しい状況にあるのですが、農業・林業においても程度の差こそあれ、厳しい状況にあると思います。そこで本県では、平成 24 年度から農林水産業生産者の所得向上につながる新たな技術開発を加速させるため、外部評価に基づくテーマ選択と研究予算の柔軟な配分を行える県単独事業の「農林水産業競争力アップ技術開発事業」を創設しましたのでトピックス的に紹介させていただきたいと思います。

研究テーマにつきましては、従来の試験研究機関、県関係からに加えまして今回初めて広く県民から募集いたしました。本年度は農・林・水で計 12 課題が採択され、その中で水産は「紀州特産魚ブランド力強化のための体成分特性の解明」、「消波ブロックを利用した食用海藻の増養殖技術開発」、「アユの低コスト飼料開発」の 3 課題が採択されています。さらに競争的資金以外の研究課題につきましては、実施の必要性につきまして研究と行政が議論し、その内容を外部評価により検討することで研究課題の重点化を図っていくこととしております。事業の概要については和歌山県のホームページ、農林水産部のところにも掲載されておりますので、詳細はそちらをご覧くださいと思います。

最後に本県の観光 PR をさせていただきたいと思います。平安時代の熊野信仰の対象となりました熊野三山、本宮・速玉・那智の三大社であります。これにつきましては 2004 年ユネスコの世界遺産に登録されておまして、串本からもさほど遠くない距離に位置しております。特に那智大社と新宮の速玉大社につきましては比較的交通の便もよろしゅうございますのでこの機会にお時間が許せば訪れていただきたいと思います。それから、当地串本町沿岸はここからもよく見えますけれども吉野熊野国立公園に含まれておまして、橋杭岩とか大島の海金剛とか見応えのある観光スポットが沢山あり、こちらにつきましてもお時間が許せば訪れていただきたいと思います。

それでは、意見交換会も含めまして、真摯な議論をしていただき、有意義な会議となることを期待し、開催県を代表しての挨拶とさせていただきます。